

# 洪水・土砂災害の危険があるときは 早い段階で安全な場所へ

## 逃げ遅れたら / その場そのときで命を守る対応を

### 避難に危険を感じたら、命を守れる場所へ

大雨や強風、夜暗いときなどに避難することは危険を伴います。ましてや浸水の中を避難するのは大変危険です。

逃げ遅れたら / その場そのときで命を守る対応を

たとえこんなところへ・・・

- ◎高くて丈夫な建物
- ◎町で定めた緊急待避所
- ◎今いる建物の高いところ、斜面から離れた部屋

自宅が命を守れる場所かは、**逃げどき** マップ で判定しましょう。

## 原則 / 早めの避難 「警戒レベル4」までに必ず避難

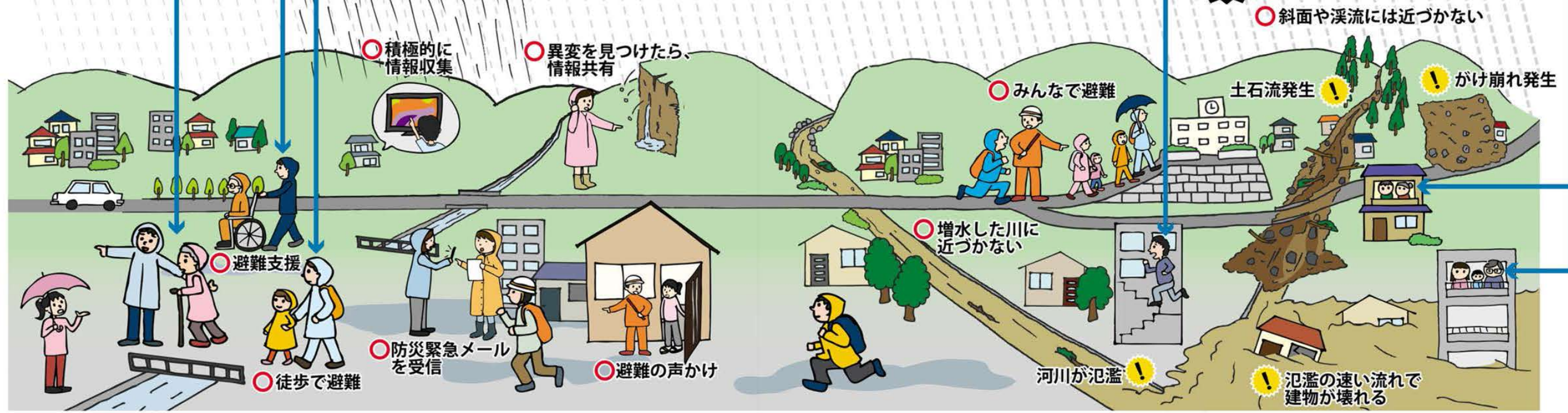
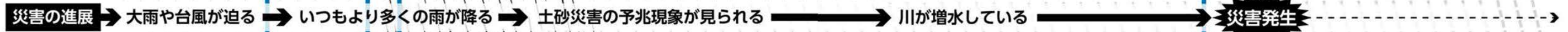
### 河川の氾濫や土砂災害の危険性が高まる前に避難

積極的に情報入手し、避難のきっかけをつかみましょう。

たとえばこんなところへ・・・

- ◎避難所
- ◎親戚・友人宅
- ◎親戚、友人宅など、市内に限らずより安全な場所

地震や水害などの災害の種類や降雨条件により、避難所の開設を判断します。全ての避難所が必ず開設されるとは限りません。



### 避難指示を聞いてからは、原則歩いて避難

避難指示を聞いてから車で避難した場合、混雑による渋滞の発生が考えられます。車での避難を考えている方は、より早い段階で避難を開始してください。状況によっては、自転車での避難も有効です。



### 低い道路は通らない

高架下のアンダーパスなど、周囲より低く冠水しやすい道路の通行は避けましょう。



### 浸水した道路は通らない

水が濁って、足元が見えにくくなります。もしフタが外れているとマンホールや排水溝などに転落して危険です。



### 逃げ遅れたら、少しでも安全な場所に避難しましょう

同じ建物でも上層階など、浸水から安全に身を守れる場所へ避難しましょう。



2階以上に上がり、斜面から離れた部屋など、少しでも安全な場所へ避難しましょう。



### 自宅にとどまる場合には準備が必要です

災害時には、水道や電気、ガスなどが使えなくなるおそれがあります。自宅にとどまる場合には、飲料水や食料などの準備が必要です。

